



Title	グラフィックワークステーションIRIS-4Dの概要と利 用法
Author(s)	小林, 一男
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1992, 86, p. 59-65
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65978
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

グラフィックワークステーション IRIS-4Dの概要と利用法

大阪大学大型計算機センター システム管理掛

小林 一男

w60164a@center.osaka-u.ac.jp

大型計算機センターではシリコングラフィックス社の3次元グラフィックワークステーション IRIS-4D/310VGX のサービスを1991年12月から行なっています。

ここでは IRIS の概要と簡単な利用方法を紹介します。

1. IRISの概要

IRIS-4D/310VGX は100万¹ピクセル/秒¹、100万²ポリゴン/秒²という高速な3次元グラフィックス性能を持つワークステーションです。現在、主記憶容量は24MB、外部記憶容量は780MBです（センターではさらに増設を検討中です）。周辺機器には、1/4インチカートリッジテープ装置、CD-ROMドライブ装置があります。ソフトウェアツールは標準装備の IRIS Explorer³があり、これを用いればプログラミング無しで可視化のためのプログラムを簡単に作成できます。さらに、ビデオ出力インターフェースも導入しており、IRIS-4Dのビデオシステム⁴を使ってアニメーションの作成もできます。

2. IRISの利用方法

2.1 マウスの基本操作

IRISを利用するには、マウスの操作が必要です。

マウスの操作には次のものがあります。

- クリック : 目的のアイコンに矢印状のポインタを合わせ、そこでマウスボタンを1度だけすばやく押し放す操作
- ダブルクリック : 目的のアイコンにポインタを合わせ、そこでマウスボタンを2度すばやく押し放す操作
- 押す : マウスボタンを押したまま維持する
- ドラッグ : 目的のアイコンにポインタを合わせてマウスボタンを押したまま所望の場所まで移動する

2.2 IRISの起動手順

- ① 画面には図1のようなログイン画面が表示されています（スクリーンセイバーにより画面が真っ黒の時は、マウスを動かすと表示されます）
- ② ポインタがログイン画面の中に入るようマウスを動かします
- ③ 登録番号を入力します
- ④ パスワードを入力します
- ⑤ しばらくすると図2の初期画面になります

¹ピクセル/秒 : 任意の方向への10ピクセル連続、24ビットフルカラー

²ポリゴン/秒 : 任意の位置での10×10(100ピクセル)、24ビットフルカラーフォン光源計算、グローシェーディング、Zバッファ処理

³Explorerの説明については本センターニュース出口弘氏の解説参照

⁴ビデオシステムの説明については本センターニュース掲載

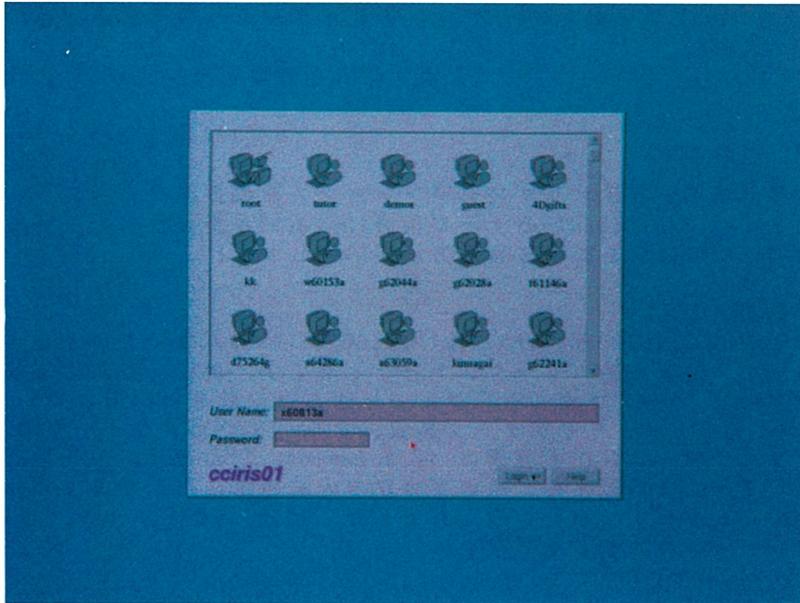


図1 ログイン画面

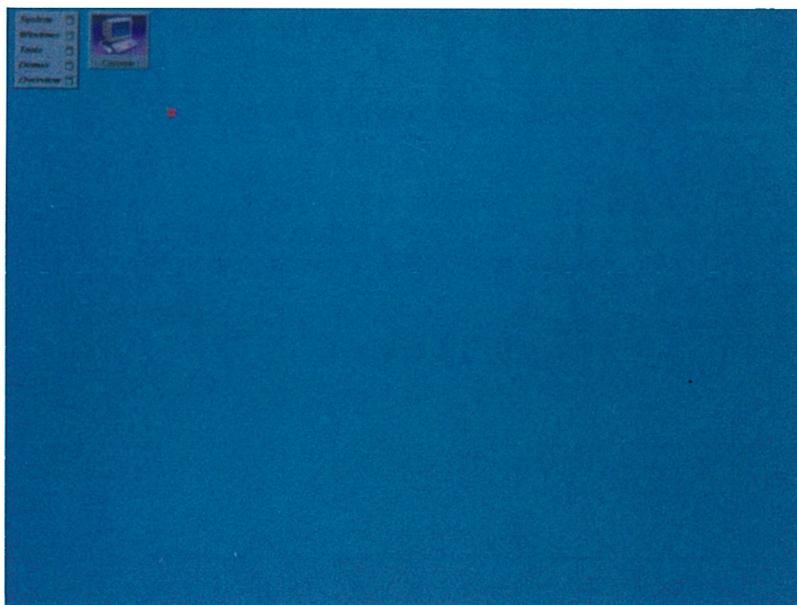


図2 ログイン後の初期画面

2.3 ウィンドウを開く手順

- ① 図2の状態、ストウドアイコンにポインタを合わせてマウスの左ボタンをクリックするとコンソールウィンドウが開かれます
さらにウィンドウを開きたいときは
- ② マウスでポインタをツールチェストの Tools に合わせます
- ③ マウスの右ボタンを押すと図4のように Tools メニューが現れるのでマウスをドラッグして shell を強調表示させ、ボタンを放します
- ④ 赤い枠が出たらマウスで好みの場所に指定して左クリックすると図5のようにウィンドウが開かれます

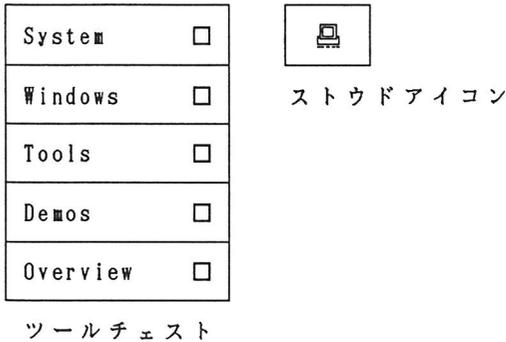


図3 ツールチェストとストウドアイコン



図4 Toolsを選びShellを選んだところ



図5 ウィンドウが開かれたところ

2.4 ウィンドウについて

ウィンドウ画面は次の様になっています



図6 ウィンドウ画面

- 左上の ー をダブルクリックすると、そのウィンドウは閉じられます
- 右上の ・ をクリックすると、そのウィンドウはストウします
- 右上の □ をクリックすると、そのウィンドウは拡大します
- 中央の ■ をドラッグすると、そのウィンドウは移動します
(いずれもマウスの左ボタンを操作)

ウィンドウ内で、マウスの右ボタンを押すとウィンドウメニューが現れます。ウィンドウメニューを使うとウィンドウサイズの設定やウィンドウの移動ができます。このメニューはカーソルをドラッグして強調表示させて選択します。

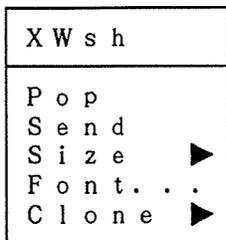


図7 ウィンドウメニュー

- P o p ウィンドウを一番手前に移動する
- S e n d ウィンドウの移動
- S i z e ウィンドウのサイズを変更する
- F o n t ウィンドウ上で使用されるフォントのサイズ、形を変更
- C l o n e ウィンドウのクローンを作成

なお、S i z e と C l o n e はロールオーバーメニューになっていますので右ボタンを押したまま矢印の方向にマウスを移動します。

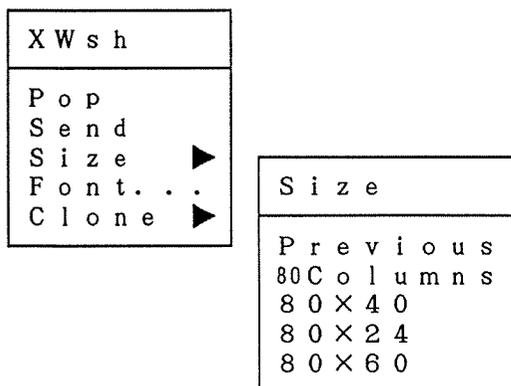


図8 ウィンドウメニュー S i z e をロールオーバーした例

Sizeメニューは

- P r e v i o u s ウィンドウを最後にリサイズした時の直前のサイズにもどす
- 80 C o l u m n s ウィンドウの幅を80カラムに設定
- 80 x 40 ウィンドウを80カラム、40行に設定
- 80 x 24 ウィンドウを80カラム、24行に設定
- 80 x 60 ウィンドウを80カラム、60行に設定

Cloneメニューは

- C u r r e n t 現在のウィンドウと同じサイズのクローンを作成
- 80 x 40 ウィンドウを80カラム、40行に設定されたクローンを作成
- 80 x 24 ウィンドウを80カラム、24行に設定されたクローンを作成
- 80 x 60 ウィンドウを80カラム、60行に設定されたクローンを作成

3. IRISワークスペースについて

コマンドをキーボードからタイプ入力するかわりに、画面上のグラフィカルオブジェクトをマウスで指して作業を行なうビジュアルインターフェースを IRISワークスペースといいます。ワークスペースの中では、アプリケーションプログラムやテキストファイル、ディレクトリなどの情報が、アイコンと呼ばれる絵で表示されます。

3.1 ワークスペースの起動手順

- ① マウスでポインタをツールチェストの System に合わせる
- ② マウスの右ボタンを押すと System のメニューが表示されるのでマウスをドラッグして Workspace にポインタを合わせてボタンを放す
- ③ しばらくするとワークスペースが起動する

3.2 ワークスペースの利用法

ウィンドウにはログインしたユーザーのディレクトリがイラストで表示され、ディレクトリを選んでマウスの右ボタンをダブルクリックしていくとファイル構造が図9のように表示されます。ワークスペースのメニューを用いることによりいろいろな作業（例えば、ファイルのコピー、作成、削除、情報一覧等）ができます。詳しくは参考文献をご覧ください。

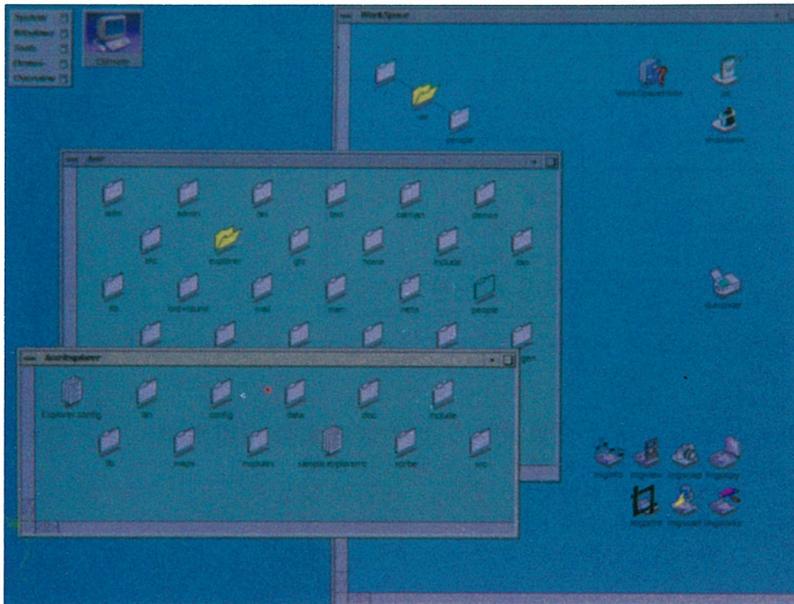


図9 ワークスペース使用例

4. IRISの終了手順

- ① IRIS のバックグラウンド（ウィンドウのない処）にポインタをおく
- ② マウスの右ボタンを押すと図10のようにウインドウマネージャーのメニューが出るので、マウスをドラッグして Log Out を選ぶ
- ③ IRIS から図11のように確認のメッセージが出るので、ポインタを Yes に合わせて左クリックする
- ④ しばらくするとシステムが終了し、図1のログイン画面にもどる

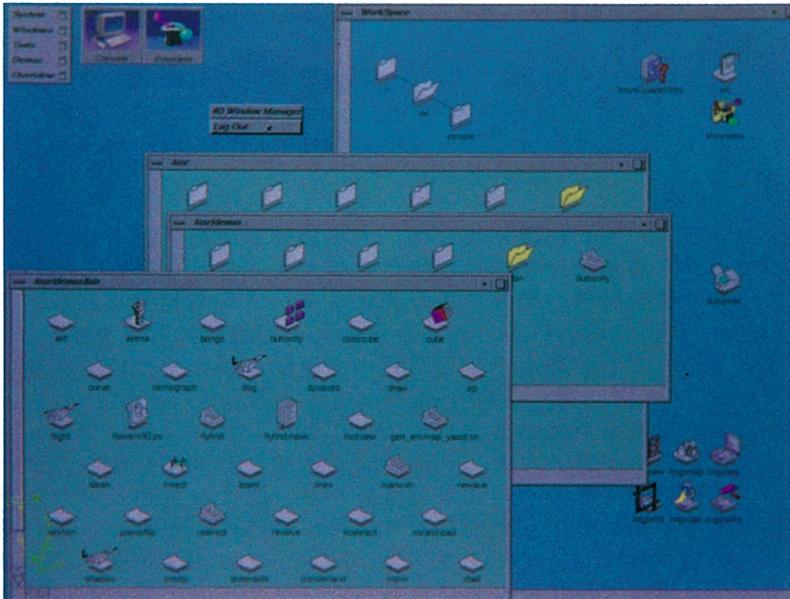


図 1 0 終了時のウィンドウマネージャのメニュー

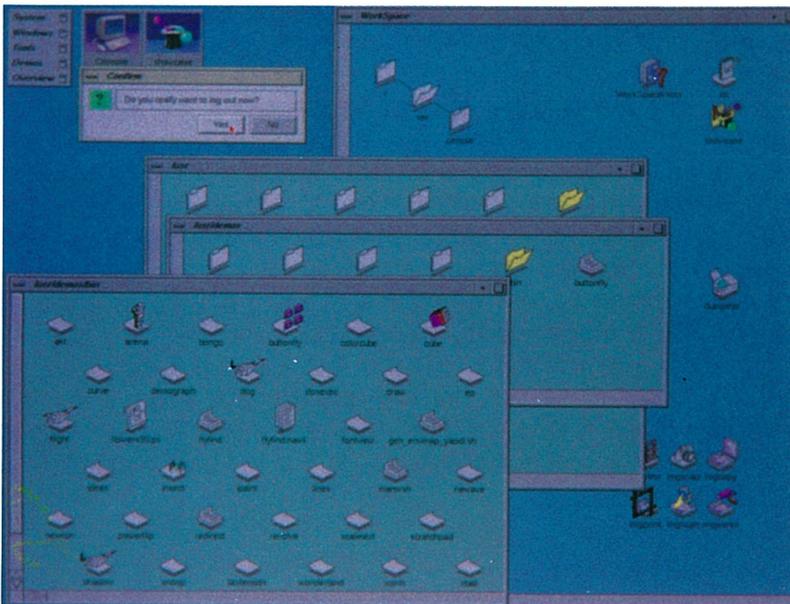


図 1 1 終了確認のメッセージ

参考文献

1. SiliconGraphics : IRIS-4D SERIES OWNER'S GUIDE
2. 日本シリコングラフィックス : IRIS-4D Series Owner's Guide version4.0
3. 日本シリコングラフィックス : IRIS-4D IRIXの基礎コース 第四版